

# 読書のすゝめ

その26 H29 11/10



## 平成29年度茨城県優良図書（高校生向け7冊）紹介

平成28年4月1日以降平成29年3月31日までに出版された図書で、図書館司書、読書団体、出版社などから推薦のあったものの中から選ばれた本です。各クラスに掲示用チラシを配布しましたので活用してください。



『空はいまぼくらふたりを中心に』村上しいこ（講談社）  
 新年度が始まり、部員が増えた「うた部」では「今年こそ短歌甲子園出場」とみんなの目標がひとつになる。クラスが落ち着いた五月、転校生がやってきて、業平に中学時代の記憶が蘇る。それは仲がよかったのに急に話をしなくなった「トキ」だった。野間児童文芸賞受賞作『うたうとは小さないのちひろいあげ』の続編です。



『アレグロ・ラガッツァ』あさのあつこ（朝日新聞出版）  
 吹奏楽部には入らないと、高校の入学式で美由は心に決めていた。だがクール女子の久樹、優しい孤池ら同級生との出会いが美由の気持ちを溶かし……。人と繋がりが、好きなことを再び始めるまでの16歳の心情を丁寧に描く。すがすがしくキュートな青春小説。



### 『アウシュヴィッツの図書係』アントニオ・G・イトウルベ（集英社）

アウシュヴィッツ強制収容所内には、国際監視団の視察をごまかすためにつくられた学校が存在した。そこには8冊だけの秘密の『図書館』がある。図書係に任命されたのは、14歳のチエコ人の少女ディタ。その仕事は、本の所持を禁じられているなか、ナチスに見つかからないよう日々隠し持つという危険なものだが、ディタは嬉しかった。ナチスの脅威、飢え、絶望にさらされながらも、ディタは屈しない。本を愛する少女の生きる強さ、彼女をめぐるユダヤ人の人々の生き様を、モデルとなった実在の人物へのインタビューと取材から描いた、事実に基づく物語。



### 『ひかり生まれるところ』まはら三桃（小学館）

神社を舞台に描く、爽快で温かな青春物語。  
 赤ん坊のころ、そして思春期と、ことあるごとに神社の存在に助けられて成長してきた主人公の希美。大人になり、夢をかなえて神職として神社で働く彼女が、ある日、ご神木のそばに見たものとは？  
 主人公の心の葛藤と成長を、神社の行事や境内で起こるさまざまな事件とともに生き生きと、そしてちよっぴりミステリアスに描いた物語。

※『空は...』『アレグロ...』『アウシュヴィッツ...』以外はすでに本校に所蔵されています。すべて購入し、冬休みには貸出ができるようにしたいと思います。

